





# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○平成 27 年度会員名簿の掲載事項について 締切 9 月 30 日	68
○会員（賛助会員を除く）登録情報の確認および変更手続きについて	69
○平成 28 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）締切 10 月 31 日	69
○第 39 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 3 報）8 月 12～14 日開催	69
○平成 27 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）申請締切 9 月 11 日	69
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	70
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	70
○平成 28 年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	70
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	71
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	72
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	73
○農業農村工学北陸コンソーシアム第 1 回技術研修会の開催について（第 2 報） 	
参加申込締切 9 月 10 日	73
○第 64 回北海道支部研究発表会の開催について（第 1 報）  発表申込締切 8 月 28 日	74
○平成 27 年度東北支部総会・第 58 回東北支部研究発表会ならびに第 48 回東北支部研修会・ 第 38 回地方講習会の開催について（第 3 報）  発表原稿締切 9 月 14 日	74
○土壌物理研究部会第 54 回研究集会の開催について（第 1 報）  10 月 25 日開催	76
○第 18 回（2016 年）「日本水大賞」の募集について 応募締切 10 月 31 日	77
農業農村工学会論文集内容紹介	78
学会記事	79

### 第 83 巻第 9 号予定

展望：気候変動に対する適応の考え方：高瀬恵次

小特集：農業農村整備事業における気候変動への適応

- ①パイプライン水路からの灌漑が夏季の圃場地温に及ぼす影響：坂田 賢ほか
- ②用排兼用水路網における水温変動と気候変動による影響予測：小林 聡ほか
- ③温暖化に対応した灌漑用水供給システムの構築を目指して：伊藤暢男ほか
- ④将来の気候変動がため池に及ぼす影響予測の事例報告：佐藤俊典
- ⑤代かき用水需要の平準化による春渇水への適応の可能性：友正達美ほか

### 技術リポート

- 北海道支部：北海道における地球温暖化対策検討部会の取組み：岸田隆志ほか  
 東北支部：津軽北部地区における鋼矢板腐食対策工法の試験施工：戸澤浩幸ほか  
 関東支部：安全な農業集落環境を確保するための土砂崩落防止施設工事：小尾信也ほか  
 京都支部：光明池におけるため池耐震対策について：加茂長郎  
 中国四国支部：海部川頭首工の多様な生物が遡上可能な魚道の施工と効果：長澤倫太郎ほか  
 九州沖縄支部：生態系に配慮した圃場整備計画：福田淳一ほか

小講座：田んぼダムによる水害抑制：吉川夏樹

私のビジョン：用水路系の水利用評価手法などの実務への適用について考える：伊藤夕樹

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成27年8月12~14日	農業用水展示実行委員会	第39回「水の週間」水のワークショップ・展示会	田んぼの水の恵み	東京都	83巻6, 7, 8号
平成27年9月1~4日	大会運営委員会	平成27年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	岡山市	82巻12号 83巻1, 4号
平成27年9月10日	農村計画研究部会	第37回現地研修集会 Ⓟ	農山村振興におけるさまざまな立場の人の参画と協働	相模原市 和東町	83巻7号
平成27年9月25日	京都支部	農業農村工学北陸コンソーシアム第1回技術研修会 Ⓟ	農業用ダムの建設にみる農業農村工学技術の現在と今後の展開	柏崎市	83巻7, 8号
平成27年10月7, 8日	中国四国支部	第70回支部講演会・第39回地方講習会 Ⓟ	—	広島市	83巻6, 7号
平成27年10月22日	北海道支部	第64回支部研究発表会 Ⓟ	—	札幌市	83巻8号
平成27年10月22, 23日	畑地整備研究部会	第50回畑地かんがい研究集会 Ⓟ	農産物の高付加価値化と畑地かんがい	鳥取市 ほか	83巻7号
平成27年10月25日	土壌物理研究部会	第54回研究集会 Ⓟ	農地を探索するものたち—土壌物理の現場最前線—	佐賀市	83巻8号
平成27年10月26日	関東支部	第66回支部大会講演会 Ⓟ	—	つくば市	83巻6, 7号
平成27年10月26, 27日	東北支部	平成27年度総会・第58回支部研究発表会・第48回支部研修会・第38回地方講習会 Ⓟ	—	福島市	83巻6, 7, 8号
平成27年10月28~30日	九州沖縄支部	第96回講演会・講習会・シンポジウム・研修会・交流会・現地見学会 Ⓟ	—	那覇市 ほか	83巻4, 7号
平成27年11月5, 6日	材料施工研究部会 農村道路研究部会	研究集会・現地研修会 Ⓟ	農道の長寿命化に向けた保全対策について	富山市 ほか	83巻7号
平成27年11月12, 13日	農地保全研究部会	第36回研究集会 Ⓟ	農地保全・活用の現状と課題(仮)	三島市 ほか	83巻7号
平成27年11月19, 20日	京都支部	第72回支部研究発表会 Ⓟ	—	大津市	83巻4, 6号
平成27年11月26日	北海道支部	第38回研修会または第35回シンポジウム Ⓟ	—	札幌市	—

## 平成27年度会員名簿の掲載事項について

平成27年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処します。掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記の上、郵送、E-mail またはFAXで9月30日(水)までにご連絡下さい。(非掲載項目につきましては、前年度までにご連絡を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です。)

なお、ご連絡がない場合は、下記事項の掲載に同意されたこととさせていただきます。

## 記

## 会員名簿掲載事項

- ①【氏名】 ②【会員番号】 ③【出身校】 ④【卒年】  
⑤【資格】 ⑥【勤務先および役職】 ⑦【自宅住所】  
⑧【自宅電話番号】

## 連絡先

郵送の場合：〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
公益社団法人 農業農村工学会 福岡あて

E-mailの場合：fukushima@jsidre.or.jp

FAXの場合：03-3435-8494

(参考)

## 会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

1. 利用目的の特定、利用目的による制限  
農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。
2. データ内容の正確性の確保  
個人情報の正確性、最新性を確保する。
3. 安全管理措置、従業者、委託先の監督  
安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
4. 第三者提供の制限  
名簿は、公益社団法人農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

### 会員（賛助会員を除く）登録情報の確認および変更手続きについて

農業農村工学会では、会員（賛助会員を除く）の現時点の登録情報の確認および変更手続きを、Web 上で行えるシステムを構築いたしました。

学会ホームページトップの会員専用サイトより、会員専用ログインで ID とパスワードでログインし手続きを行って下さい。

なお、会員専用サイトにログインするためには、あらかじめ「会員専用 WEB 利用サービスに関する利用登録の申込み」が必要となりますので、手続きがお済みでない方は先にその手続きをお願いします。

変更の内容を確認するには1~2日の期間が必要となります。

### 平成 28 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成 28 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、本誌第 83 巻第 6 号 67 ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成 27 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

### 第 39 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 3 報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めてきました。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

1. 日 時 平成 27 年 8 月 12 日（水）～14 日（金）  
10：00～17：00
2. 場 所 東京国際フォーラム G 棟 701
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会
4. 全体テーマ 水のハッピーデー～水について学ぼう～
5. 農業用水テーマ 田んぼの水の恵み
6. 展示内容 学生によるワークショップ、iPad アプリによるゲーム、パネル展示、生き物の水槽など

### 平成 27 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 27 年 9 月 11 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グ

ループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。

3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
  - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」

は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成27年9月11日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

#### 必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

#### 3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌8月号掲載の問題は9月末日が解答期限）

#### 5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

#### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

### 平成28年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成28年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

#### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連続と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつか

は、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 84 巻（平成 28 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成 27 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考

7. 結果発表

学会誌第 84 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作

品は平成 28 年度全国大会会場でパネル展示

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送り

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせ

10. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付して

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 83, 84 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
83 巻 9 号 農業農村整備事業における気候変動への適応	公募終了
10 号 農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後（仮）	公募終了
11 号 水土の知を次の世代とともに（仮）	公募終了
12 号 ため池の耐震性能診断と保全管理戦略（仮）	8 月 10 日
84 巻 1 号 農作業安全と土地改良（仮）	8 月 17 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下

さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会  
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494  
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

### 83巻12号テーマ「ため池の耐震性能診断と保安全管理戦略」(仮)

東日本大震災からの復旧・復興に対応した新たな政策展開に資するため、平成24年3月に「土地改良長期計画」が閣議決定され、ため池などの農業水利施設の耐震強化の推進が位置づけられました。合わせて、同年10月には会計検査院による報告「公共土木施設等における地震・津波の実施状況等に関する会計検査の結果について」において、農業用施設の耐震整備による安全性確保やハザードマップ作成の重要性が指摘されました。このような状況を踏まえ、多くの地方公共団体で、これまでの老朽化および豪雨対策に加え、耐震対策を考慮に入れたため池の健全度評価が実施されるようになりました。農業用水の供給に占めるため池の割合やそこに期待される多面的機能の捉

え方は異なるものの、地方公共団体などが地域の特色をベースにして取り組んでいるため池の保安全管理は、総体として、農業農村整備技術の進展に欠かせないものと位置づけられます。

本小特集では、このような背景を踏まえ、①老朽化対策、豪雨対策、耐震対策などに関わる健全度評価の取組みと補修・補強事例、②ため池には古くに建造されたものが多く、堤体および基礎の水理・力学的調査が重要となることから、これらの調査技術の適用事例または新たな開発技術とその展開の可能性、③耐震照査のための解析手法に関する技術検討成果と課題、あるいは④限られた予算の制約下での中長期的なため池の保安全管理戦略構築、などに関わる報文を広く募集します。

### 84巻1号テーマ「農作業安全と土地改良」(仮)

わが国では年間約45,000件もの農作業事故が発生し、毎年350名を超える人命が失われている。他産業では労働衛生環境の改善が徹底して進められ、2009年における労災事故死者数は1971年の約2割に減少した。他方、農作業事故死はこの40年間ほとんど変わらず高位安定のまま推移している。こうした農作業事故を防止するため、注意喚起を促すパンフレットの作成と配布、また安全装置の開発と実装が積極的に展開されてきた。

ここで考えたい。これまで農業工学は、この問題にどのように対峙してきたのであろうか？ また農業工学の知見と技術を駆使すれば、農作業事故を削減・防止することができるのではないだろうか？ このような見地に立脚し、この小特集では、農作業安全をめぐる問題を土地改良事業の観点から考究した論考、作業基盤の観点から農作業事故の発生要因をひも解いた報文、農作業事故を防止するための取組みや工夫などに関する事例研究などを広く募集します。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.151 (2015年版) と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)

- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回

購読料: 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2015年1月から2017年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering)の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2015年7月にVol.13, No.3が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社のSCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIEのIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルはIF=1.151 (2015年版)と高い評価を得ております。

また、世界14カ国からEditor (23名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2015年1月から2017年12月までの編集事務局は韓国です。  
**投稿先**：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

**編集事務局**：Professor Dr. Jin-Yong CHOI  
Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology  
Rural Water and Information Engineering Lab.  
Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University  
1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742  
TEL：+82.2.880.4583 FAX：+82.2.873.2087  
E-mail：iamchoi@snu.ac.kr

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。  
その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、

土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制**

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)  
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ **Editors** 14カ国から23名
- ・ **Editing Board** 26名
- ・ **Chief Management Editors**  
**Dr. Jin-Yong CHOI**  
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea  
**Dr. Yoshiyuki SHINOBU**  
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan
- ・ **Managing Editors**  
**Dr. Haruhiko HORINO**  
Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan  
**Dr. Kazunari FUKUMURA**  
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan  
**Dr. Yu-Pin LIN**  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China  
**Dr. Ming-Daw SU**  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**出版社**：Springer-Japan社

**投稿資格**：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

**投稿要領等**：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

農業農村工学北陸コンソーシアム第1回技術研修会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村工学技術者の技術研鑽の場を提供し、斯界の技術継承・向上と技術者育成を図るとともに、その活動を通して広く農業農村工学分野の社会広報を推進することを目的に、「農業農村工学北陸コンソーシアム」を平成27年4月24日に設立しました。新潟大学農学部および石川県立大学生物資源環境学部の関連教員団の呼びかけと農業農村工学会京都支部の支援のもと、北陸地域の民官学の技術者がメンバーとなり、新潟県や北

陸地域に数多く動いている農業農村工学関連事業などを題材に、現地研修会や技術勉強会を開催し、われわれ技術者の自己研鑽を進め、斯界の技術継承・向上を図っていきたくと企画しています。

その活動の第1弾として、下記の技術研修会を開催することとしました。農業農村工学分野に関わる多くの技術者の方々、これからこの分野で活躍していこうとする若手技術者と学生の

方々より、多くのご参加をいただけるよう、ご案内いたします。

1. 主催 農業農村工学北陸コンソーシアム運営委員会  
農業農村工学会京都支部
2. テーマ 農業用ダムの建設にみる農業農村工学技術の現在と今後の展開
3. 日時 平成27年9月25日(金) 9:00~16:00
4. 場所 新潟県柏崎市市野新田ダムおよび柏崎土地改良区(〒945-1342 柏崎市三和町8-19)
5. 行程 (バス移動) 9:00 柏崎地域振興局集合→9:15 JR 柏崎駅集合→10:00 市野新田ダム 11:00→12:00 土地改良区/昼食(弁当)/13:00 技術講義
6. プログラム  
詳細は農業農村工学会ホームページをご覧ください。  
午前(現地研修):北陸農政局市野新田ダム「ダムの立地と選定—地域の水需要と地形・地質制約—」  
午後(技術講義):  
1) フィルダムの建設と技術課題  
北陸農政局柏崎周辺農業水利事業所  
2) フィルダムの動的解析技術の現状と課題  
NTC コンサルタント(株)  
3) フィルダムの締固めと品質管理  
NTC コンサルタント(株)・(株)フジタ

(注) 技術講義資料は事前に送付します。これを予習いただき、当日の技術講義のディスカッションに参加いただく予定です。

7. 募集人員 50名
8. 参加費および支払い方法  
・参加費:5,000円(学生は2,000円)  
・当日、現金でお支払い下さい。農業農村工学会京都支部長名による領収証をお渡しします。
9. 参加申込み  
問合せ先あて、FAX または E-mail にて、お名前、所属・勤務先、連絡先住所、電話番号、E-mail アドレス、および農業農村工学会 CPD 個人登録者の方は CPD 登録者番号をご連絡下さい。締切を平成27年9月10日とさせていただきます。
10. 宿泊施設・航空券などの幹旋  
宿泊施設、航空券、鉄道券などは各位でお手配下さい。
11. 問合せ先  
農業農村工学北陸コンソーシアム運営委員会事務局  
担当:鈴木哲也・稲葉一成  
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050  
新潟大学農学部生産環境科学科内  
TEL&FAX:025-262-7395  
E-mail:suzuki@agr.niigata-u.ac.jp

## 第64回北海道支部研究発表会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日時 平成27年10月22日(木)
2. 会場 札幌市・札幌エルプラザ ホール  
(札幌市北区北8条西3丁目・JR札幌駅北口より徒歩5分)

### 3. 研究発表申込み

発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と発表形式の希望(口頭またはポスター)をE-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。

発表申込みの締切は平成27年8月28日(金)です。

発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。

講演集原稿の締切は平成27年9月25日(金)です。

### 4. 参加申込み

下記様式により、E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下さい。

### 【申込様式】

所属機関		
同上所在地		
申込代表者		TEL
氏名	所属	備考

参加申込締切は平成27年10月9日(金)です。

### 5. 発表・参加申込先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内  
農業農村工学会北海道支部事務局  
担当:柏木淳一 E-mail:kashi@env.agr.hokudai.ac.jp  
TEL:011-706-3641 FAX:011-706-2494

### 6. 参加費用

研究発表会講演集代2,000円(当日会場にて申し受けます。)

## 平成27年度東北支部総会・第58回東北支部研究発表会ならびに 第48回東北支部研修会・第38回地方講習会の開催について(第3報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 開催日 平成27年10月26日(月), 27日(火)
2. 会場 コラッセふくしま

〒960-8053 福島市三河南町1-20  
TEL:024-525-4089



【会場までのアクセス方法】

JR 福島駅西口から徒歩 約3分  
 東北自動車道福島西 IC から車で約15分  
 東北自動車道飯坂 IC から車で約15分  
 ※できるだけ公共交通機関をご利用下さい。  
 ※コラッセふくしま有料駐車場 (30分まで無料、以降30分ごとに100円)  
 ※県庁舎外来駐車場に駐車した場合は、会場受付で駐車券を提示すれば、無料処理します。(会場まで徒歩約20分)

3. プログラム (案)

〈第1日目〉10月26日(月)

(1) 総会ならびに研究発表会

9:00～9:30 受付  
 9:30～10:15 支部総会  
 10:15～10:45 支部賞授賞式  
 10:45～11:00 休憩  
 11:00～12:00 特別講演  
 「福島の食と農の再生について (仮)」

※講演者は調整中。決定次第、7.の東北支部ホームページで公表します。

12:00～13:00 昼食・休憩  
 13:00～17:00 第58回支部研究発表会  
 (5会場予定)

(2) 情報交換会

18:00～20:00 [会場:コラッセふくしま]

〈第2日目〉10月27日(火)

(3) 支部研修会・地方講習会

9:00～9:30 受付  
 9:30～12:00 第48回支部研修会  
 テーマ:「東日本大震災および原子力災害からの  
 農業再生に向けた取組みと現状および今後の  
 展望」

①基調講演1

国立研究開発法人国際農林水産業研究センター  
 企画調整部技術促進科科长 万福裕造

②基調講演2

NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

③基調講演3

南相馬市農業者団体 A.C.ハマーズ 2001

12:00～13:00 昼食・休憩  
 13:00～15:30 第38回地方講習会

①「土地改良設計指針『耐震設計』について」

②「『農業水利施設の機能保全の手引き』の改正について」

4. 支部大会参加申込方法

平成27年度の全体的な運営については福島県が担当します

が、研究発表の受付、プログラム編集は宮城大学が担当します。支部大会の申込みは下記によりお申し込み下さい。

(1) 参加申込み

「平成27年度農業農村工学会東北支部総会・研究発表会・研修会・地方講習会参加申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mailにてお申し込み下さい。その際、メールの件名は「東北支部大会参加申込み」として下さい。申込様式は7.の東北支部ホームページよりダウンロードできます。

(2) 参加申込み受付期間

平成27年8月3日(月)～9月14日(月)【厳守】

(3) 参加費

総会・研究発表会 4,000円 (学生会員 1,500円)  
 情報交換会 5,000円  
 支部研修会・地方講習会 4,000円 (非会員 5,000円)

(4) 参加費の納入方法

参加申込みと同時に次の銀行口座に全額前納で振込みをお願いします。振込手数料については、振込人負担でお願いします。

【振込先】

銀行名: ゆうちょ銀行 (金融機関コード 9900)  
 店名: 八二八 (店番号: 828)  
 口座番号: 普通預金 1803103  
 口座名: 公益社団法人農業農村工学会東北支部事務局  
 (シャ) ノウギョウノウソンコウガクカイトウ  
 ホクシブジムキョク)

【留意事項】

振込元が申込書と照合できるように、所属・氏名等を必ず記入してください。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承下さい。

(5) 参加申込み先および問合せ先

農業農村工学会東北支部事務局  
 福島県農林水産部農村計画課 小久保 藤本 長岡  
 〒960-8670 福島県福島市杉妻町 2-16  
 TEL: 024-521-7405 (直通)  
 E-mail: tochikairyuu\_01@pref.fukushima.lg.jp

5. 研究発表の申込み

研究発表申込みをされる方は、上記4.の参加申込みを別途行い、必ず参加費を納入して下さい。

なお、口頭発表者は、本学会会員に限ります。

(1) 研究発表の申込み・問合せ先

〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1  
 宮城大学食産業学部環境システム学科  
 千葉または神宮字まで  
 TEL: 022-245-2211 (代)  
 E-mail: chibak@myu.ac.jp

## (2) 要領

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて、上記(1)の申込先にお申し込み下さい。なお、原稿はWordか一太郎ファイルでお送り下さい。

投稿票ファイルは、7.東北支部ホームページからダウンロードして下さい。

また、研究発表要旨集原稿の書き方についても、東北支部ホームページに掲載していますので、参照して下さい。

## (3) 発表方法

発表時間は15分以内(発表12分、質疑3分)とします。また、発表の補助機材として、パソコン(OS: Windows, ソフト: MS-Power Point2007)とプロジェクターを用意します。

## (4) 研究発表申込み受付期間

平成27年8月3日(月)~9月14日(月)【厳守】

## (5) 研鑽賞および奨励賞について

支部研究発表会および東北支部管内における農業農村

工学会大会講演会において、多年にわたり積極的に研究成果を発表した会員に授与する研鑽賞の対象と思われる方は、投稿票に発表年度・講演題目を記入して下さい。また、支部研究発表会において、優れた研究成果を発表し、将来の活躍が期待される若手会員に授与する奨励賞の対象者(前年度の3月31日現在で35歳以下)の方は、投稿票に生年月日を記入して下さい。

なお、研鑽賞および奨励賞の受賞資格の詳細については、東北支部ホームページに掲載している農業農村工学会東北支部賞授賞規則をご確認下さい。

## 6. 宿泊および昼食について

宿泊についての斡旋はいたしませんので、ご了承下さい。

昼食については、会場内のレストラン等をご利用下さい。

## 7. ホームページ

農業農村工学会東北支部ホームページ

<http://www.jsidre.or.jp/shibu/tohoku/>

## 土壌物理研究部会第54回研究集会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 主催 農業農村工学会土壌物理研究部会<br/>共催 土壌物理学会</p> <p>2. テーマ 農地を探求するものたち<br/>—土壌物理の現場最前線—</p> <p>3. 日時 平成27年10月25日(日)9:00~14:30</p> <p>4. 場所 佐賀大学本庄キャンパス<br/>理工学部6号館(DC棟)1階大講義室<br/><a href="http://www.saga-u.ac.jp/gaiyo1/campusmap/index.html">http://www.saga-u.ac.jp/gaiyo1/campusmap/index.html</a><br/>(図中西側㉓)</p> <p>5. 参加費 1,500円(要旨集代, ただし学生は無料)</p> <p>6. 会場への交通手段<br/>佐賀駅バスセンターから市営バスで約15分。バス停「佐大前」で下車して徒歩約5分。<br/>4番 - 佐賀女子短大・高校線(中央大通り・佐大前経由)<br/>11番 - 佐賀大学・西与賀線<br/>12番 - 佐賀大学・東与賀線<br/>63番 - 佐賀女子短大・高校線(紡績通り・佐大前経由)</p> <p>7. プログラム</p> <p>9:00 受付<br/>9:50 開会<br/>10:00~10:45 話題その1<br/>10:50~11:35 話題その2</p> | <p>11:40~12:30 (昼食)<br/>12:30~13:15 話題その3<br/>13:20~14:30 総合討論<br/>14:30 閉会</p> <p>・情報交換会(10月24日(土)17:30~19:30)は前日開催の土壌物理学会大会と共催になります。</p> <p>8. その他</p> <p>・プログラムなどの詳細は後日ご案内します。<br/>・都合により一部変更することがあります。<br/>・宿泊の予約は各自でお願いします。<br/>混み合うようですので、早めの手続きをお願いします。<br/>・なお、前日の10月24日(土)に同所にて土壌物理学会大会が開催されます。詳しくは土壌物理学会ホームページ(<a href="https://js-soilphysics.com/conf/">https://js-soilphysics.com/conf/</a>)をご覧ください。</p> <p>9. 問合せ先<br/>農業農村工学会土壌物理研究部会事務局<br/>〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577<br/>三重大学大学院生物資源学専攻科共生環境学専攻<br/>農業農村工学講座農地工学研究室<br/>成岡市(なりおか はじめ)<br/>TEL: 059-231-9574 E-mail: narioka@bio.mie-u.ac.jp<br/><a href="http://www.jsidre.or.jp/bukai/dojyou/">http://www.jsidre.or.jp/bukai/dojyou/</a></p> |
|---|---|

## 第 18 回（2016 年）「日本水大賞」の募集について

### 1. 目 的

日本水大賞は、21 世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

### 2. 対象範囲

#### (1) 対象となる活動分野

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

#### (2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

### 3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞を授与し、広く公表します。なお、副賞は受賞活動をさらに継続していただくよう授与しています。

①大賞【グランプリ】（賞状・副賞 200 万円）

②大臣賞（賞状・副賞 50 万円）

【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】

【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】ほか

### 4. 選定の方法等

日本水大賞委員会の下に、上記の賞を選考するために各々の審査部会を設置し、表彰対象となる活動を審査し、最終的には日本水大賞委員会が決定します。

### 5. 募集期間

平成 27 年 7 月 7 日（火）～10 月 31 日（土）（郵送の場合

は当日消印有効）

### 6. 応募方法

応募用紙（3 枚：ホームページからダウンロードして下さい）に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を事務局あてに送付または持参して下さい。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mail でも応募を受け付けます。

応募方法の詳細はホームページを参照して下さい。

### 7. 審査結果の公表

審査の結果は、平成 28 年 4 月頃までに公益社団法人日本河川協会のホームページにて公表する予定です。入賞者には個別にご連絡いたします。

### 8. 主催等

#### (1) 主催 日本水大賞委員会

名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下

委員長 毛利 衛（日本科学未来館館長）

国土交通省

#### (2) 後援 環境省、外務省、文部科学省、厚生労働省、農

林水産省、経済産業省、公益社団法人農業

農村工学会ほか 33 団体

#### (3) 協賛 「川の日」実行委員会ほか 5 団体

### 9. 送付先・問合せ先

【日本水大賞委員会事務局】

公益社団法人 日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 E.C.K ビル 3 階

TEL：03-3238-9771 FAX：03-3288-2426

E-mail：taisyo@japanriver.or.jp

担当：小野（平日 9：15～17：30）

ホームページ：http://www.japanriver.or.jp/taisyo/

<「日本水大賞」は、(公財)河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています>